統計数理（1990）
第38巻 第2号 301-316

研究会報告

文献情報のデータベースとその利用に関する研究会

平成元年度 統計数理研究所 共同研究（1-共会-99）

開　催　日：1990年3月8日
研究代表者：村上　征勝（統計数理研究所）

人文科学の諸分野で文献情報のデータベース及びその利用に関する研究が数多く行われるようになった．しかし，このような研究が始められたのは比較的最近のことであり，その為，各分野の研究者間の交流もいまだ少なく，また研究情報の交換も必ずしも十分とはいえない状況にある．そこで，昨年に続き，表記の研究会を開催し，研究情報の交換，成果の報告を行い，また，今後の課題等について討議した．尚，本年度は，総合研究大学院大学の共同研究「文字・画像データベースの構築とその利用に関する総合的研究」（代表者：杉田繁治(国立民族学博物館)）の研究会も兼ねて開催した．研究報告数は15件，参加者は56名であった．

プログラム

セッション1．　司会：吉岡　泰夫（熊本短大・教養）
「画像とテキストデータの高速検索」　杉田　繁治（国立民博）
「国文学研究とパーソナルデータベース」　安永　尚志・北村　啓子（国文学研究資料館）
「自動品詞分解を通しての古語のデータベース化」　西端　幸雄（大阪樟蔭女子大・学芸）
「『奥の細道』データベースの試作 —— 研究者のための個人用データベースの一例 ——」
松本　浩一（図書館情報大・図書館情報）
「日英対照『源氏物語』テキスト・データベースの作成と試験利用」
長瀬　真理（東京女子大・情報処理センター）

セッション2．　司会：山元　周行（北大・理）
「文章の伸縮とデータベース」　樺島　忠夫（大阪府大・総合科学）
「品詞の使用率からみた和文体・漢文体の特徴」　村上　征勝・岸野　洋久（統数研）
「哲学とコンピュータ —— キェルケゴールの文体のコンピュータ解析 ——」
桝形　公也（大阪教育大・教育）
「日蓮遺文の計量分析 —— 思想の変化と文体の変化 ——」
村上　征勝・岸野　洋久（統数研）・伊藤　瑞叡（立正大・仏教）
「学術文献情報の関係構造化とそのクラスタ分析」　斉藤たつき（北大・工）

セッション3.　司会：米田　正人（国立国語研）

「調査における自由回答のデータベース作成とその統計分析」

鈴木　達三・村上　征勝（統数研）

「国語学研究文献情報データベース化の方策」　熊谷　康雄・江川　清（国立国語研）

「日本古代・中世の漢文表記文献の機械可読化とその利用における諸問題」　當山日出夫

「歴史学研究に対するパーソナルコンピュータの応用」　星野　聰（京大・大型計算機センター）

「縄文貝塚のデータベース」　植木　武（明大・文）・村上　征勝（統数研）